

2021年度研究プロジェクト報告

ことばの力ー基督教の視点から

<プロジェクトメンバー>

打樋 啓史（代表、センター長、社会学部教授）

加納 和寛（センター副長、神学部教授）

橋本 祐樹（主任研究員、神学部准教授）

梶原 直美（主任研究員、教育学部教授）

赤江 達也（社会学部教授）

Timothy O. Benedict（社会学部助教）

山 泰幸（人間福祉学部教授）

2019年度から始められ、今年度には2期目（3年目）を迎えた本プロジェクトは、本質的に「ことばの宗教」である基督教において、「神のことば」「神に関わることば」がどのように理解されてきたかを探ることを目的として進められてきた。それらの言葉は、どのような文脈でどう語られたり記されたりしてきたのか。そのような言葉はコミュニケーションにおいてどのような役割を果たし、影響を与えてきたのか。これらの問いについて学際的共同研究を行ない、現代における「ことばをめぐる諸問題」に基督教の視点から何を発信できるかを探求してきたのである。

2021年度にはZoomを用いて5回の研究会を開催し、研究員による研究報告がなされた。以下の通りである。

第1回研究会

日 時 5月21日(金) 17時～18時半

テーマ キリスト教の礼拝における言葉と sacrament—「言葉の sacrament性」についての試論

報告者 打樋 啓史(社会学部)

第2回研究会

日 時 6月18日(金) 17時～18時半

テーマ ことばとしての「神」と「カミ」—日本近世における鬼神論をめぐって

報告者 山 泰幸(人間福祉学部)

第3回研究会

日 時 7月16日(金) 17時～18時半

テーマ 実践神学における経験のことば—現代ドイツ・プロテスタントの視点から

報告者 橋本 祐樹(神学部)

第4回研究会

日 時 10月15日(金) 17時～18時半

テーマ 塚本虎二による新約聖書口語訳の形成

報告者 赤江 達也(社会学部)

第5回研究会

日 時 11月12日(金) 17時～18時半

テーマ オリゲネスとことば—聖書に示される神の像とそれに向かう生を求めて

報告者 梶原 直美(教育学部)

昨年度同様コロナウイルス感染症拡大の影響下ではあったが、このようにオンラインで順調に研究会を開催することができ、毎回充実した研究報告とそれを受けての活発な議論が行われた。また、12月17日（金）には、メンバーが集まり、これまでの研究成果を出版物にまとめるための相談を行った。既に出版社との相談を始めており、2022年度中に出版予定で作業を進めていくことになる。

（打樋 啓史・プロジェクト代表）